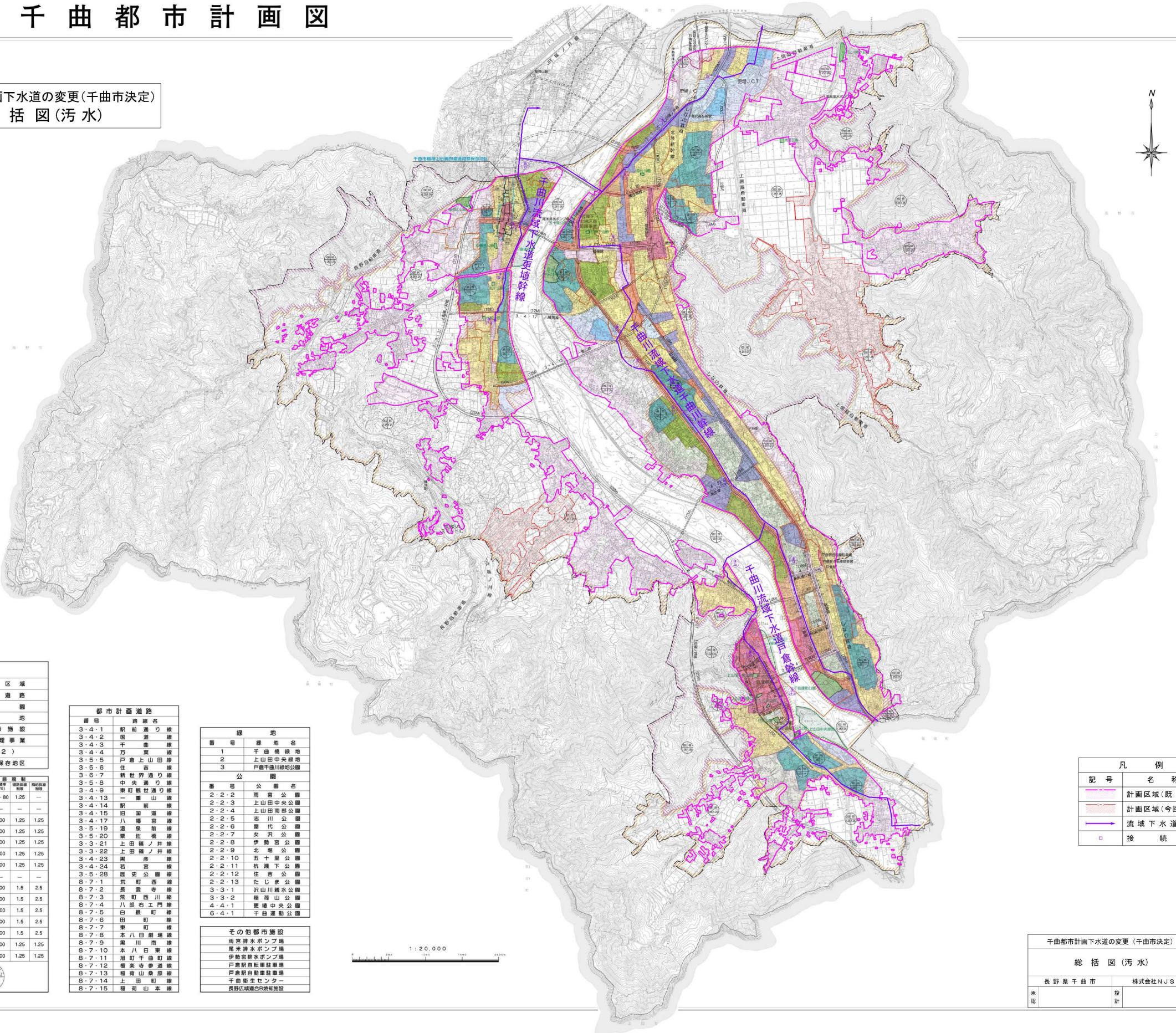


千曲都市計画図

令和七年六月

千曲都市計画下水道の変更(千曲市決定)
総括図(汚水)



変更理由書

千曲市（旧更埴市）では、昭和47年10月3日に良好な都市環境の形成及び保持などが必要な五十里川都市下水路約920haを排水区域に定めて都市計画決定を行い、昭和58年に雨宮排水ポンプ場（旧一丁田都市下水路ポンプ場）及び尾米排水ポンプ場、昭和62年には伊勢宮排水ポンプ場の都市計画決定を行った。

その後、平成3年12月10日に都市下水路を廃止し、長野市、更埴市、戸倉町、上山田町及び坂町を処理対象区とする「千曲川流域下水道（上流処理区）」として事業認可を受け、公共下水道事業の推進を図ってきたが、更埴市、戸倉町及び上山田町が千曲市として合併したことに伴い、平成16年10月7日に汚水の排水区域を2,140ha、雨水の排水区域を2,095haとし、市街地の進展や土地利用の動向を踏まえ、平成21年8月6日に汚水の排水区域を2,170haへ随時区域拡大を行い、鋭意整備を進めてきた。また、令和4年3月22日に既整備区域に隣接する産業団地等を加え、汚水の排水区域を2,188haに定め、概ね整備は完了した。

一方、市街地周辺の農村集落の生活環境の改善として、平成5年度の農業集落排水処理施設整備から始まり、それぞれの汚水処理施設の特徴を活かし、地域の実情に応じた汚水処理手法により整備を進めた結果、令和3年度末には千曲市の汚水処理人口普及率は100%となった。

しかしながら、農業集落排水処理施設の整備から一定の期間が経過し、施設能力が相対的に低下し、常に先を見越した計画的・段階的な改築・更新が必要なこと又、人口減少や少子高齢化を背景に汚水処理施設の効率化、再編が急務となっている。

このため令和4年度に「長野県生活排水処理構想（2022改定版）」を長野県と共同で策定するに当たり、計画処理人口や汚水量等の規模等を予測し、整備した下水道施設や農業集落排水処理施設等の位置及び施設の機能状況等を把握し、地域特性や経済性等を考慮してより効率的で効果的な下水道計画の見直しを行った結果、一部の農業集落排水施設の処理区等について下水道排水区域へ編入し、汚水処理施設の効率化を図ることとした。

今回の変更は、森及び羽尾処理区における238haの農業集落排水事業を公共下水道事業の更埴第4及び第8処理分区に編入し、汚水処理の広域化や維持管理の効率化を進めることで、公衆衛生の向上と公共用水域の水質保全を図るものである。

処理分区	処理区	区域拡大理由	面積(ha)
更埴第4	森	農業集落排水施設の老朽化に伴い、公共下水道排水区域に編入し、汚水処理施設の効率化を図るため。	146
更埴第8	羽尾		92*
合計			268

*羽尾処理区は、全体面積98haから都市計画区域外面積6haを除いた面積。

都市計画区域外面積6haは、公共下水道と一体的であるとみなして公共下水道で整備を行う。

千曲都市計画下水道の変更について

(1) 事業の内容

森地区及び羽尾地区農業集落排水施設の公共下水道への接続に伴う都市計画下水道の変更

(2) 事業の概要

農業集落排水事業について、処理場等施設の老朽化や人口減少に伴う下水道収益の減少などにより、適切な維持管理が困難となってきております。一方で、千曲市の公共下水道は、千曲川流域下水道（県管理）に接続されており、より広域的な維持管理・経営体制がとられており、また下水道の国庫補助金を活用した改築・更新を行うことができます。

このような社会経済情勢の変化に対応するため、農集排を今後単独で更新していくよりも、公共下水道と統合した方がライフサイクルコストの最小化が図られることから、森地区及び羽尾地区農集排の公共下水道への接続に伴う都市計画下水道の変更を行います。

(3) 公共下水道接続までの流れ

R7.10月27日 都市計画決定手続き

R8.3月 事業計画の変更・都市計画の事業認可

R8年度 実施設計業務委託

R9年度 公共下水道への接続工事

令和10年度の供用開始を予定

【農業集落排水施設の接続の概念】



【接続による利点】

- ・区域の共同化による処理施設の削減
- ・適正な役割分担による管理体制の確立

(4) 接続工事の概要

(現段階での計画であり変更となる可能性があります。)

森地区及び羽尾地区農業集落排水の浄化センターを廃止し、浄化センター流入箇所から最寄りの公共下水道の既設管路に向けて、接続する管路を新設します。また、接続後の流量に対して能力が不足する既設管の一部を改修し、流化能力を確保します。工事は令和9年度を予定しています。

○森農業集落排水エリア工事予定箇所



○羽尾農業集落排水エリア工事予定箇所

